



院長のご近所探訪

～向島警察署～

向島警察署は東京都墨田区文花三丁目18番9号にあり、墨田区の北部を管轄しています。その歴史は昭和20年3月10日の東京大空襲により寺島警察署が消失した為、吾妻橋警察署と統合され昭和20年5月17日に向島警察署が創設されました。同署には向島戦隊「減らスンジャー」があり、犯罪・事故を減らすため活動しているそうです。

改めてナイチンゲールの偉大さに感嘆！！

私は前病院で全国自治体病院協議会看護部会の幹事を担っておりました。看護部会の仕事は看護師研修会の企画・運営、診療報酬改定の要望事項の取りまとめ、自治体病院における看護師勤務状況等の調査・報告等です。

2年前の「看護部会研修会」（この研修会は全国の自治体病院の看護部長、看護科長が対象）で㈱テルモの取締役：副社長の松村啓史さんに講演をお願いすることになりました。

松村啓史さんは看護にとっても理解を示され、看護師にエールを送って下さっている方です。

著書も多数あり、「ナイチンゲールに学ぶときめきの経営学」「看護管理者のための幸せ交渉術」「アートにあふれる看護のリーダー湿布」「ナースが疲れない・疲れさせない仕事術、教えます！」等々、ユニークなタイトルで読みたいくなります。

松村先生に講師依頼をするのが私の役目で、まず著書を読まなくちゃと思い、早速、アマゾンで数冊取り寄せました。

どれも大変面白く、一気に読みました。（私の理解の程度はともかく…）中でも一番印象に残ったのは「未来を拓く 愛と希望の看護—松村流悩める看護管理者への処方箋」という本でした。

「愛と希望の看護」の“はじめに”の部分にロンドンのセント・トーマス病院にある「ナイチンゲール・ミュージアム」について書かれています。「ナイチンゲール・ミュージアム」は恥ずかしながらその本で初めて知りました。そして、是非、行きたいと思い今年の夏休みに実現することが出来ました。

セント・トーマス病院はビッグベンの時計台からテムズ川の対岸にあり、24時間救急対応の大きな病院で、病院の入り口に「Welcome to St Thomas “Hospital”」と書かれていました。

中に入ると、ファンシーショップ、洋服、スーパー、カフェショップが2店舗あり、ここが病院？と思いましたが、救急外来から患者さんをベッドで搬送するナースが目の前を歩いて行きました。

それから、病院とは別棟にある小さな「ナイチンゲール・ミュージアム」に向いました。入り口でお金を払い中に入りました。（イ

ギリスは国立の施設は無料ですが…）

ナイチンゲールがクリミア戦争で使った薬箱や白衣、有名なランプ等が展示されていました。イギリスでは「ランプの貴婦人」と呼ばれているそうです。

そして私達看護師のバイブルである「看護覚え書き」のいろいろな国の本が展示されていました。ナイチンゲール伝の日本の漫画本も展示されていたので驚きました。

ナイチンゲールが現場で勤務したのは約2年半、その後50年以上ベッドの生活でしたが、200冊以上の本を書き、セント・トーマス病院内に看護師学校を創設し後継者の育成にあたりました。ミュージアムには卒業生や学校のスケジュール等の写真もたくさん展示されていました。

ナイチンゲールは看護の改革だけでなく、感染対策をふまえた病院設計や統計学者でもあり、劣悪な療養環境についてデータを基にイギリスの女王にプレゼンテーションをして衛生改革も行いました。

また、今では当たり前のこと、例えば、ナースコール、病室でもお湯が出る、食事を上げるリフト等もナイチンゲールが行った改革です。このようにナイチンゲールが改革した様々なことが現在も根付いています。2年半の現場経験で看護の全てを提唱しました。凄まじい観察力、分析力、解決力、交渉力、行動力、リーダーシップ等、やはり超人です！！

ナイチンゲールの先見性・偉大さを改めて考える事ができ、看護の素晴らしさを再認識しました。

「進歩のない組織で持ちこたえたものはない」とナイチンゲールは言っています。

ナイチンゲールが考えた看護に少しでも近づけるよう日々、進歩していきたくと思います。



看護部長 竹下礼子



「お薬手帳」を活用しよう！

薬剤検査科 科長
内川 清次



「お薬手帳」とは

医療機関で処方された薬の名前や量、日数や使用方法などを記録し、服用履歴を管理するための手帳のことです。この手帳には、副作用歴やアレルギーの有無、過去にかかった病気などについても記入することができます。患者さんにとっては、このお薬手帳があれば、どこへ行っても現在使っている薬や過去に使用した薬について伝えることができ、新しい医療機関を受診する時などに役立ちます。



また、医療関係者にとっても、このお薬手帳の記載事項から薬の服用履歴や既往症、アレルギーなどの情報を得ることができ、相互作用による重篤な副作用やアナフィラキシーのようなアレルギー予防効果が期待できます。

なぜ？「お薬手帳」が生まれたのか。

お薬手帳の導入は、1993年の「ソリブジン薬害事件」がきっかけです。「ソリブジン薬害事件」とは、帯状疱疹治療薬として新たに発売された「ソリブジン」と抗がん剤の「フルオロウラシル」を併用した患者さんに白血球や血小板が減少するなどの重篤な血液障害が発生し、「ソリブジン」発売後1年間で15名が死亡した事件です。この当時は複数の医療機関を受診している場合、他の医療機関で出されている薬の把握が難しい状況でした。そこで一部の大学病院や薬局が、手帳に患者さんが服用している医薬品を書き込んで情報提供を行うようになりました。これが「お薬手帳」の始まりです。

このお薬手帳を更に普及させたのは、2年後の1995年に発生した阪神淡路大震災です。被災地で、他県から支援に入った医療者が患者さんに普段飲んでいる薬を聞いても、返ってくるのは「血圧の薬」「白い薬」といったあ

いまいな答えでした。その時にお薬手帳を持っている患者がいて、その記載事項から服用している薬品名、用法用量が判明し、速やかに治療を継続することができました。このことから、お薬手帳の重要性が認知され、急速に普及することとなりました。災害時での有用性は、その後の東日本大震災の際も確認され、災害時の特例としてお薬手帳があれば処方せんなしで薬を受け取ることができるにもなりました。

医療連携のツールとしての「お薬手帳」

お薬手帳は、当院でも入院患者さんが持参してきた薬の鑑別に非常に役立っています。お薬手帳は患者さん自身だけでなく、医療関係者にとっても情報を得る重要なツールとなります。現在、お薬手帳の電子化が進められています。スマートホンのアプリとして開発され、手帳機能だけでなく、処方箋の写真を撮り、かかりつけ薬局へ送るといったいろいろな便利機能の開発も進んでいます。このようにして生まれ、進化していく「お薬手帳」を医療連携のツールとしてもっともっと活用していきましょう。



ご近所ネットワーク

～向島警察署の取り組み～

1. 向島警察署の歴史

向島警察署は、大正時代に寺島警察署と吾嬬警察署の2署で管轄していましたが、昭和20年3月10日の東京大空襲により寺島警察署が焼失したため、両署が統合され、昭和20年5月17日、新たに向島警察署が創立され、昨年70周年を迎えました。

向島警察署では、墨田区や各町会・自治会等と連携し、様々な取り組みを行っていますが、今回は震災警備、犯罪抑止対策、交通安全について紹介します。

2. 震災警備活動について

管内は木造住宅密集地域が多くあり、家屋の倒壊や大規模な火災に発展する危険が高く、都内で最も震災に弱い地区です。首都直下型地震の発生は30年以内に70%と言われています。

地震の発生を防ぐことはできませんが、被害を最小限に抑える「減災」は日頃の訓練でできます。そのため、各町会、自治会、各関係機関と協力して、防災訓練、研修会等に取り組んでいます。



女性の震災対策連絡会の実施状況

3. 犯罪抑止対策活動について

平成28年7月現在、向島警察署管内のオレオレ詐欺を含む特殊詐欺の発生は8件、被害金額約1,919万円で、昨年より3件1,069万円の増加となっております。

主な活動として、管内ボランティア団体の協力を得て毎月特殊詐欺根絶キャンペーンや自転車盗・ひったくり防止キャンペーンを実施し、地域の安心・安全なまちづくりのために活動しております。

4. 交通安全について

本年、7月末現在、向島警察署管内の交通人身事故発生件数は死亡事故2件を含む116件で、昨年より12件増加となっております。

悲惨な交通事故を1件でも減らすために向島交通ボランティアの協力を得て各種キャンペーン等を実施し、交通弱者である子供、高齢者を交通事故から守るため、交通安全に取り組んでいます。



特殊詐欺根絶キャンペーンの実施状況

これからの退院支援にむけて ～退院支援看護師としての第一歩～



地域リハビリテーション科 看護師 主任 鈴木 亜季
看護師 主任 加藤かほり

医療福祉連携室では、当院で行っている退院支援が更に充実し、診療報酬にも結びつくようにと退院支援プロジェクトが始動しました。私達は4月に病棟から地域リハビリテーション科へ異動し、退院支援看護師としての第一歩を踏み出しました。主な活動としては、病棟看護師と一緒に退院後の生活を見据えたケア方法について考え、家屋評価へ同行したり、退院前カンファレンスに参加したりしています。時には、療法士の方からも担当されている患者さんのご相談を受けることもあります。そんな私達は、変わった色のユニフォームを着ているだけではなく、ちょっとした特徴をもっているので簡単にご紹介をさせていただきます。

鈴木は、2014年に日本看護協会より訪問看護認定看護師の認定を受けました。当院に訪問看護はないのに何故？という声もあるかと思います。そこで、訪問看護認定看護師に期待される主な役割をご紹介します。それは「地域包括ケアシステム構築に中心的な役割を果たし、医療と介護の連携の推進を図ること。在宅療養者・障害者が療養の場を移行する際に、継続した看護のための円滑な退院調整のケアマネジメントができること」というものです。私個人には力不足な部分も多いですが、院内のチームの皆様と協働していくことで少しでも良い退院支援につながればと思っています。

加藤は、2015年に日本看護協会より慢性疾患看護専門看護師の認定を受けました。慢性疾患は範囲が広く、私は「脳神経看護」をサブスペシャリティとしています。当院の患者さんは障害を持って地域に帰る方がほとんどで、発症を機に今までの生活から新たな生活の再構築が必要となります。そのため、心の葛藤に寄り添い、疾病や障害と向き合い、どのように生きていきたいかを患者さん・ご家族と一緒に考え、自立・自律した生活ができるように多職種チームと協働した退院支援を行っていきたくと思っています。

今年度より当院の運営理念に「福祉・介護との連携推進をはかる」ことが盛り込まれ、それに伴い基本方針にも、「地域におけるリハビリテーション医療と福祉・介護の充実・進展」が加わりました。また、2016年度の診療報酬改定では、地域包括ケアシステム推進のための取り組み強化として、退院支援に関する評価の充実があげられています。病院は病院完結型から地域完結型へ向け、質の高い退院支援への取り組み強化が優先課題となっています。退院支援看護師として、患者さん・家族が住み慣れた地域でより良い生活が送れるよう多職種の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。宜しく願い致します！



平成28年度 第2回 介護技術研修会の開催

7月30日（土）会場：ヒロ薬局介護サービス
（主催：区東部地域リハビリテーション支援センター*1）

当研修会は、当院の地域リハビリテーション科 作業療法士が担当し、動画や理論を交えた座学式講義と、実技指導を無料で受講できることが特徴です。今回は、「起居・立ち上がり・移乗などベッド周辺動作の介助方法～自然な動きを理解する～」をテーマに開催いたしました。対象者は、墨田区・江東区・江戸川区在勤の施設介護や居宅介護に携わっている方で、当日は、定員を上回る24名にご参加いただきました。

参加者の皆様からは、「早速、業務に取り入れたい」「是非また参加したい」と言った感想を多くいただき、明日から業務で活かせる技術・知識を情報交換できる場として有意義な会を開催することができました。開催にご協力いただきましたヒロ薬局介護サービス様には、深く御礼を申し上げます。

最後に、今年度も区東部地域リハビリテーション支援センターとして、地域の介護・福祉・保健・医療に従事される皆様へより良い研修会を開催し、地域リハビリテーションの普及・啓発に努力して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

*1 区東部地域リハビリテーション支援センターとは

東京都では、地域リハ提供体制の連携強化を目的として、二次保健医療圏ごとに地域リハビリテーション支援センターを指定しています。区東部（墨田区・江東区・江戸川区）では地域リハビリテーション支援センターの拠点として東京都リハビリテーション病院が指定され、地域における様々な形で実施されているリハビリテーション事業を支援するため、研修会など地域リハビリに関する各種事業を実施しています。



研修会の様子

当院並びに区東部地域リハビリテーション支援センター 研修会 開催予定

① 区民公開講座 第2回 認知症を知る・支えるセミナー

日時 平成28年11月12日（土） 10:00～12:00 会場 すみだリバーサイドホールギャラリー 定員 50名

② 第2回 高次脳機能障害専門職向け症例検討会

日時 平成28年11月17日（木） 18:45～20:40 会場 曳舟文化センター 2階レクリエーションホール 定員 80名

③ 第3回 リハビリ多職種連携研修会 事例検討

日時 平成28年12月2日（金） 18:45～20:45 会場 タワーホール船堀 定員 80名

平成28年度 地域リハビリテーションセミナー 開催予定

	日 程	時 間	場 所	定 員
第1回	平成28年10月24日（月）	18:30～20:30	江戸川区役所 7階 71・72会議室	60名
第2回	平成28年11月 7日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室5	35名
第3回	平成28年11月21日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室5	35名
第4回	平成28年12月 5日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室4	65名
第5回	平成28年12月19日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室4	65名
第6回	平成29年 1月16日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室4	65名
第7回	平成29年 1月30日（月）	18:30～20:30	すみだ産業会館 会議室1,2	85名

※開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。

今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、

区東部地域リハビリテーション支援センター事務局（TEL:03-3616-8600 内線376）担当 岡田までご連絡下さい。

～ものづくりセミナー～

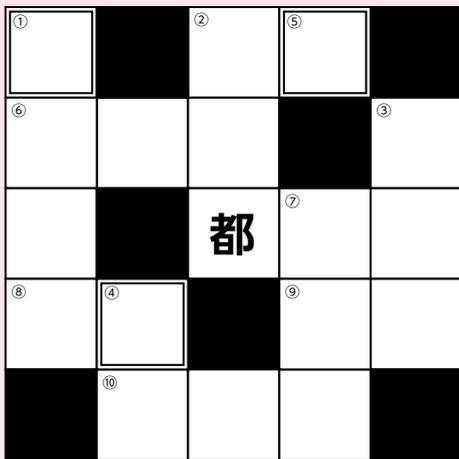
世田谷ものづくり学校による『デジタル工作機械による新しいものづくり』をテーマにしたセミナーが行われました。まずは、世田谷ものづくり学校の活動紹介。その後デジタル工作機械による新しいものづくりの詳しい話を聞きました。今回一番の目玉の3Dプリンターを実際に持って来て職員に見せてくれました。3Dプリンターとは、平面（二次元）的に印刷するプリンターに対し、3DCAD・3DCGデータを元に立体（三次元）的に造形するプリンターです。製造業を中心に、建築・医療・教育・先端研究はたまた航空宇宙などあらゆる分野で普及している、今話題の画期的機械。実際に目の前で病院長の3Dミニ胸像を作成しながら、3D作成した物を実際に触ってみたい、スキャンしてみたい、少し変わった研修に時代の進歩を感じました。早々に医療分野でも広く活用出来る事を望みます。



ほっとりハ

クロスワードパズル Vol.4

ヒントをもとにマス目を埋め、二重マスの文字をつなげてください



タテのかぎ

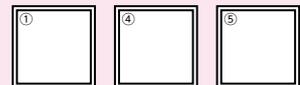
- ① 星飛雄馬のライバル左門〇〇〇〇
- ② 首都（都）を移す事〇〇都
- ③ 伊豆大島にある中央火口丘〇〇〇山
- ④ 昔の言い方で十字路や街頭の意味
- ⑤ 乳がんの早期発見運動はピンク〇〇

ヨコのかぎ

- ② 本州と四国をつなぐ〇〇大橋
- ⑥ 元素番号はJ、アトムの子の名前でもある
- ⑦ 早期〇〇ビリテーションの重要性を説く
- ⑧ 〇〇を脱ぐ時はキッチンと揃えましょう
- ⑧ 出世魚のひとつ。最後はトドのつまりとなる
- ⑧ 代議士の3バンは看板とカバンとこれ



答え：



プー ル

多数のご応募ありがとうございました

【応募方法】 はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。

【締切】 平成28年11月18日（金） 当日消印有効

※正解は次号に掲載いたします

【応募先】 〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1

東京都リハビリテーション病院 ほっとりハ編集係宛

東京都リハビリテーション病院

ほっとりハ

平成28年11月4日（金）発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1

TEL：03-3616-8600 FAX：03-3616-8705

http://www.tokyo-reha.jp



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

編集後記

暑かった日々も去り、街はハロウィンの飾りで賑やかです。このハロウィン何だか内容がわからない。昔から仮装祭、何だろうかと思っけていて、この際ネットで調べてみました。どうもケルト人の秋の収穫祭何だそう。それが主にアメリカで定着して今の形になったとのこと。内容もこの時期現世に現れる霊を払うために仮装するそうです。日本のお盆みたいですね。当院も見渡してみればやはりあちこちに飾り付けがされています。ハロウィンが終わればクリスマス、師走。御酒を頂くイベントが増える時期、皆さん体調管理ご油断なく。